

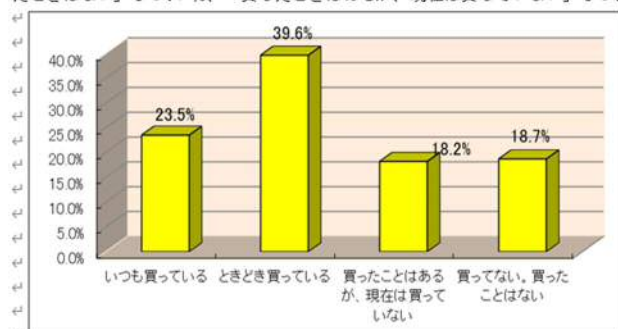
## 第3回上下水道モニター会議を開催

### ■アンケート調査の集計結果について

上下水道部では、上下水道事業へのご意見・ご要望をお伺いし、お客様サービスの向上を図るため、市民 200 名を対象とした「上下水道に関するアンケート」を実施しました。

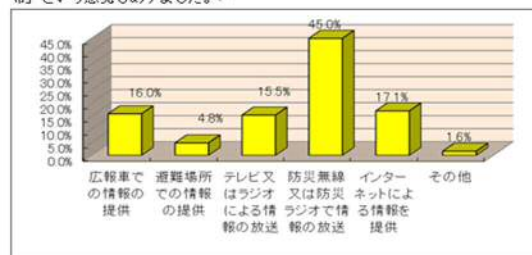
アンケートの結果、187 名の皆さまから貴重なご意見等をお寄せいただきました。下図は、アンケート結果を一部抜粋したものです。

- ・「〇〇ウォーター」「〇〇の水」などボトル入りの水が多く市販されていますが、ご購入されていますか。<sup>④</sup>  
「ときどき買っている」39.6%、「いつも買っている」23.5%、「買ってない、買ったことはない」18.7%、「買ったことはあるが、現在は買ってない」18.2%でした。



#### ④(問16～問20) 危機管理対策について

- ・日頃、地震や災害等の非常時に備え、飲料水等を備蓄していますか。<sup>④</sup>  
「準備している」52.4%、「準備していない」47.6%でした。
- ・災害時でも水洗トイレの流し水など生活用水は必要ですが、生活用水は備蓄していますか。<sup>④</sup>  
「準備している」31.0%、「準備していない」69.0%でした。
- ・災害時において必要な情報は、どのような手段であれば確実に知ることができると思いますか。<sup>④</sup>  
「防災無線又は防災ラジオで情報の放送」45.0%、「インターネットによる情報提供」17.1%、「広報車での情報提供」16.0%、「テレビ又はラジオによる情報の放送」15.5%、「避難所での情報提供」4.8%、「その他」1.6%で「チラシ・冊子の全戸配布」という意見もありました。



日常的に市販の水を購入されている方が約 25%となり、水道水離れが進んでいます。市販の水は、水道水と比較して冷たく、飲み易さや美味しさを感じます。

しかし、水道水の利用者が減少すれば、料金回収が減少し、お客さまからの料金によって賄われている水道事業の経営悪化に繋がるため、大きな課題となっています。

また、アンケートでは、災害時に備えた飲料水を「備蓄している」と回答された方が半数を上回る結果となりました。東日本大震災の教訓からも、大規模災害では、断水の規模や期間も予測不能な面が多いです。日頃から、災害時を意識した備えを行う事の大切さを意識している方が多いことが分かりました。

## ■水道料金及び下水道使用料の改定について

人口減少に伴い事業収入が減少している中、老朽化した施設・管路の更新費用等の増加により、上下水道事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。

今後の持続可能な事業運営のため、令和5年10月分から、水道料金及び下水道使用料を改定します。

水道料金については、現行料金から平均15%、下水道使用料については、令和6年9月分までは「激変緩和措置期間」とし、現行使用料から平均17%、同年10月分からは平均33%の値上げとさせていただきます。



## ■水道お客様センター紹介

平成22年度からの委託業務に伴い、登米市水道お客様センター（迫町佐沼窓口）では、平日は8時から18時まで、水曜日は20時まで、土曜日は12時までの営業を行っています。

登米市水道お客様センターでは、以下の業務を担っています。

- ① 「窓口業務」（料金の支払い手続き、開始休止の申込み等）
- ② 「水道メーター取付け取り外し業務」（取付け取外し、メーター管理等）
- ③ 「検針及び水道料金計算業務」（メーター検針等）
- ④ 「水道料金収納及び未収金管理業務」（通知書等の作成等）

